



来年度に向けて、次のActionを！



学力向上の取組も、PDCAサイクルでいうと、「C」のCheckをし、「A」のActionを起こす時期となりました。今年度はもちろんのこと、令和4年度の「COMPASS」等も活用していただき、学力向上のPDCAサイクルを回していきましょう！

「探究的な学習」を推進するために・・・

① 「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムの学習過程で、「探究的な学習過程」を意識していきましょう！

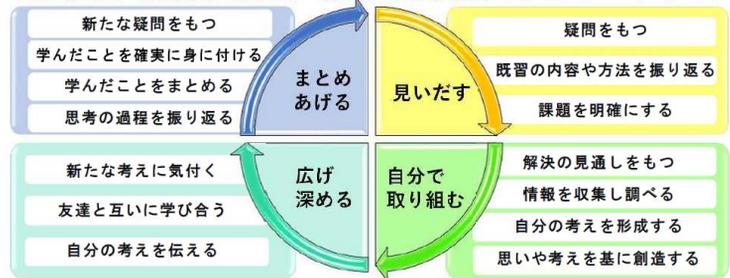
Q. 「探究的な学習」とは、どういうものですか？

A. 1単位時間の授業や単元全体を通して、**探究の過程を位置付けた**ものです。文部科学省は、探究の過程として「①課題の設定」「②情報の収集」「③整理・分析」「④まとめ・表現」を示しています。これは県の実践モデルプログラムの四つの学習過程に該当します（下図参照）。

Q. 「探究的な学習」は、総合的な学習の時間で実践すればよいですか？

A. 総合的な学習の時間だけでなく、各教科においても、**右の学習過程を意識して授業展開**することで、児童生徒の「探究的な学習」につながるものと考えます。

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム



Q. 「探究的な学習」を行う上での授業のポイントは何か？

A. **子供自らが課題を見つけられる**よう、主体的な学びにするための教師の働きかけ（発問）に工夫が必要です。



※令和4年度「COMPASS」vol.11（探究的な学習）も参考にしてください！

② 「総合的な学習の時間」の計画を見直すなどカリキュラム・マネジメントの推進を図りましょう！

総合的な学習の時間は、**探究的な見方・考え方を**働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目標にしていることから、今後もますます重要な役割を果たすと考えます。新年度を迎えるにあたり、**自校の全体計画や年間計画等を見直し**、子供たちの探究的な学びを充実させましょう！

〔参考〕文部科学省資料「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」

小学校編



中学校編



課題別実践アイデア例で、苦手の克服！



令和5年度の全国学力・学習状況調査の各教科に関する調査結果を受け、具体的に課題となる部分に対しての「手立て」や「POINT」を作成しました。

御覧いただければ、普段の授業の中で、どれも子供たちが「苦手」と感じている内容だと思います。

確認していただき、各教科を指導する際に活用してください。

- 小・国語「図表やグラフ等を用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」
- 小・国語「同音異義語を正しく理解して書く」
- 小・国語「日常使われる敬語を理解して使う」
- 中・国語「複数の文書を比べて読み、自分の考えを広げたり深めたりする」
- 小・算数「百分率で表された割合について理解する」
- 小・算数「図形の意味や性質について理解する」
- 中・数学「平行線や角の性質を基に、図形を考察する」
- 中・数学「問題解決の過程や結果を振り返りながら、発展的に考察する」
- 中・英語「日常的な話題について、短い文章の概要を捉える」
- 中・英語「社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書く」

小・算数のアイデア例↓

課題

【小・算数】百分率で表された割合について理解することが苦手

手立て

問題場面から「基準量」「比較量」「割合」の関係を探え、図や式を用いて自分の考えを伝え合う活動を充実させる

具体例

POINT ① 百分率で表された割合から基準量を自ら決めて、それに対する比較量を捉える活動をする

例えば、100人を基準量としたとき比較量が30人であれば、割合は「30%」であることを学習する際に、基準量を10人にしたり、30人にしたりしたときの比較量を捉えることができるよう、ていねいに指導することも大切です。

POINT ② 百分率で表された割合に関する課題について、図や式を用いて、自分の考えを友達と伝え合う活動をする

〈課題の例〉卓球80試合の勝率が「65%」のときの勝利試合数は？

〈児童の活動〉

式 $80 \times 0.65 = 52$ 答え 52試合

「65%」は「0.65」です。「65」を「100」にする「**算**」の関係から、「勝利試合数」は「全ての試合数」の「0.65倍」です。だから、勝利試合数は「52試合」です。

図に表すことによって、自分の考えをうまく伝えることができますね。

課題別実践
アイデア例は、
こちらです！

クリック
してもHPに
ジャンプ
します



中・英語のアイデア例↓

課題

【中・英語】社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことが苦手

手立て

読んだことを基に自分の考えとその理由を書く（話す）場面を設定する

具体例

POINT ① 日常的な話題に関する活動において考えと理由を示す

◎まずは「好きな動物（季節・教科）」など日常的な話題について、常に自分の考えや理由を整理し、伝える習慣を身に付けさせる

「What animal do you like?」に対して「I like cats」と生徒から反応があった場合に、「Why?」と問いかけます。そのようなやり取りを日常的に繰り返すことで、ある話題について、自分の考えと理由をセットで表現する力が向上します。

POINT ② 社会的な話題に関する賛否とその理由の整合性を捉える

◎社会的な高いテキスト文を基に、その賛否に即した理由をあらかじめ示し、自身の賛否を明らかにした上で、整合性のある理由文を選択させる活動を行う

例えば、「Robots can change many people's lives better.」という話題に対して、

- ① If robots do our housework, we will have more time.
- ② Robots cannot understand our mind.
- ③ People will lose their job.
- ④ Robots can make many products in less time.

などの理由文を提示し、自身の賛否と、それに符合する文を選択する活動を行います。上記の例において、「賛成」であれば①、④を、「反対」であれば②、③が望ましい報告となります。理由文を自分で書くのは難しい場合、このように選択可能なことで、「自分の考えとその理由をつなげる力」を育成することが期待できます。

POINT ③ 社会的な話題に関する考えとその理由を実際に書く

◎読解のステップとして、社会的なある文章を読んだ上で、自身の考えや賛否と、その理由を実際に書かせる活動を行う

読解に関する自分の考えや賛否に応じて、整合性のある理由を実際に書かせる活動を行います。「考えとその理由のつながりが適切かペアで確認させる」「because や so, as a result など、理由や原因・結果を表す接続詞を使うよう促す」などの補助的な指導も行いつつ、ポイント②で紹介した読解をもう一度書き直してみませんか？

学力向上の窓

「子供たちの主体的な学び促進事業」では、県独自の学習教材

「ちばっ子チャレンジ100」（小学校）、「ちばのやる気学習ガイド」（中学校）

を作成しています。

基礎・基本の定着や思考力、判断力、表現力等の向上につながる問題（解答・解説付き）

があります。学年末のまとめ等にも是非活用してください！

